

パネルディスカッション2
多様な言語文化の背景を持つ子どもの成長を育む環境づくりの新展開
～連携の「いま」と「これから」

多機関連携による地域子ども日本語教室の成長

－「あだち子どもの日本語教室」の例を中心に－

山田拓路（NPO 法人メタノイア）

1. 「あだち子どもの日本語教室」の概要

1.1. 教室開設の目的

NPO 法人メタノイア（以下、「メタノイア」）が2021年9月に開始した「あだち子どもの日本語教室（竹の塚（たけのつか）・新田（しんでん）・伊興（いこう）の3教室）」（以下、「本事業」）は、東京都足立区で展開する多拠点型の地域子ども日本語教育事業である。区内および近隣自治体に居住する外国にルーツをもつ子どもに、①日本語学習支援を受ける機会を保障すること、及び②立場の似た他者と過ごす心理的安全性が担保された帰属先の提供（コミュニティ創出）を目指す取り組みである。

1.2. 教室設置地域と規模

外国籍の幼稚園年長～小学校低学年（5～9歳）児が特に集住する竹の塚・新田・伊興¹⁾を主たるターゲット地域として、その域内に教室を各1か所設置した。会場について、竹の塚教室は社会福祉法人所有の施設「ポルテホール」を、新田教室と伊興教室は区の公共施設である地域学習センターを利用した。各教室の在籍児童生徒数は、竹の塚教室16人、新田教室16人、伊興教室5人（いずれも2023年2月末時点）である。

2. 地域のNPO・企業・行政との連携

2.1. あだち外国ルーツの子ども支援ネットワーク「まるかるネット」

本事業の開始以前から、足立区には「コネクトリンク勉強会」という子ども支援関係者が官民間わらず集まるネットワーク会議が結成されていた。そこに参加していた外国にルーツをもつ子どもの支援に関わりがある団体に声をかけ、筆者の属するメタノイアが取りまとめ役となって「コネクトリンク勉強会・海外ルーツの子ども支援分科会」を始めることとした。現在は名称を「まるかるネット」に改めている。主な構成団体は、NPO 法人青少年自立援助センター（YSC グローバル・スクール）、認定NPO 法人キッズドア、認定NPO 法人カタリバ、ポルテホール連絡協議会、株式会社グランディオサービス（足立区伊興／新田地域学習センター指定管理者）、街活性室株式会社（足立区NPO活動支援センター指定管理者）、足立区役所地域調整課多文化共生係である。

上記構成団体と隔月の定例会を実施し、情報交換や、イベントの企画立案等を行っている。また、足立区内のNPOが主催する子どもの日本語教室の情報をまとめたパンフレット『あだち外国ルーツの子ども支援団体のご紹介』を作成、発行した。このパンフレットは、区役所や区の子どもの支援センターの窓口においても配架されているほか、区役所のホームページにもPDFデータで掲載されている²⁾。これを見て各教室に問合せの電話をかけてくる外国ルーツの保護者やスクールソーシャルワーカー等の区職員は多い。

2.2. 連携が教室運営に及ぼす効果

2.2.1. 会場の無償提供と交流

新田教室の会場である新田地域学習センターにおいては、まるかるネット構成団体で同センター指定管理者の株式会社グランディオサービスが、メタノイアと日本語教室共同開催に関する業務提携の覚書を交わした。会場の無償提供や教材等一部備品の保管を同社が担っており、また、同社が同センター内で管理する区立図書館と中国語（母語）読み聞かせイベントを共催するなど連携関係を強めている。

竹の塚教室の会場であるポルテホールは、まるかるネット構成団体のポルテホール連絡協議会が属する社会福祉法人の所有施設の一部であり、地域住民向けのコミュニティスペースとして無償開放されている。そのホールを毎週1回2時間、無償で借り受け、教室を開講している。一方、同法人の運営する福祉施設の職員研修として、研修生による見学を本教室で受け入れている。

2.2.2. サービスラーニング生の受け入れ

まるかるネット構成団体の街活性室株式会社（足立区NPO活動支援センター指定管理者）の取り次ぎにより、区内にキャンパスを持つ文教大学の学生のサービスラーニングを行う現場として本事業が指定されている。大学の前期と後期に各2名程度を教室で受け入れ、毎週ボランティアとして主に幼児クラスの子どもたちの教室活動に参加している。

2.2.3. 共同開催イベントによる普及啓発

足立区主催の区民を対象とした講座「皆援隊講座」において、外国ルーツの子ども支援をテーマとする回にまるかるネット構成団体のNPOおよび足立区役所多文化共生係係長が登壇し、区内外の市民に向けて、課題の周知と協力の呼びかけなどを行っている。2021年度、2022年度ともハイフレックス形式で行い、100名程度の参加者を得た。

3. その他の地域での連携の試み

足立区における本事業のほかに、連携による教室の拡大・新設が実現した事例を紹介したい。

埼玉県川口市の「クルド日本語教室」は、2016年に個人がボランティア教室として開講したクルド難民の子どもと大人の日本語教室である。参加希望者が増加傾向にある中、メタノイアと連携して共催事業化し、開講日を週2回から3回に増やした。

また、「おうだい子ども日本語教室」は、東京都豊島区の大正大学内に設置された学生ボランティアにより運営される教室である。メタノイアが同大学の依頼を受け実施した地域子どもの日本語教室の運営ノウハウをレクチャーする研修に参加した学生グループが、その研修を機に自主的に開設した教室である。

4. さいごに

外国にルーツをもつ子どもが十分に学び、他者とのつながりを紡ぐことができる環境の実現に向け、往々にして課題となるのが資金や人、場所といったリソースの限界である。しかし、一教室、あるいは一団体のみでは解決が困難であるこの課題を、多様な機関と連携関係を築くことで解決を図れる可能性は高くなるだろう。そして、それは外国にルーツをもつ子どものみの利益に留まらず、公共施設が地域在住の外国籍区民とつながる機会、あるいは学生が体験的学びを得る機会の提供といった、地域に生きるその他の多くの人々の利益にもなり得ると考えている。

【注】

- 1) 足立区（2021年4月調査）「外国人 年齢、町丁別人口」（足立区役所配架資料）を参照
- 2) コネクトリンク勉強会 海外ルーツの子ども支援分科会『あだち外国ルーツの子ども支援団体のご紹介』（2021年11月）<https://www.city.adachi.tokyo.jp/documents/55634/2022connect.pdf>